



10月5日 セッション6(8:30am-10:00am)

1) アメリカ原住民— アメリカと環太平洋地域 の不可視の少数民族

Native Americans – the Invisible Minority in America and the Pacific Rim

デビット・ガース「カーターバ」(ガースアソシテツ
プリンシパル、カリフォルニア州、AICAE会長)

ジョンポール・ジョーンズ
(ジョーンズ&ジョーンズ プリンシパル、ワシントン州)

ブライアン・マコーマック「ネズペールス」
(マコーマックランドスケープデザイン プリンシパル、アイダホ州)

ケン・ライン「ツスカラロ」
(パーソナルグループバイス プレジデント、ジョージア州)

ディビッド・N.スローン (ディビッド・N・スローン&
アソシエイツ、ニューメキシコ州)



David Garce (Catawba),
Garce Associates, California
AICAE: American Indian Council
of Architects and Engineers
NADC: Native American Design
Collaborative



Johnpaul Jones, Jones &
Jones, Washington



Brian McCormack (Nez
Perce), McCormack Landscape
Design, Idaho



Ken Rhyne (Tuscarora),
the Presnell Group, Georgia



David N. Sloan (Navajo),
David N. Sloan & Associates,
New Mexico

デビット・ガースは、ネイティブアメリカンのデザイナーのプロフェッショナル国内組織、AICAE(American Indian Council of Architects and Engineers)の会長である。このグループはアメリカ国内のネイティブアメリカンの建築家、ランドスケープアーキテクト、エンジニアが結束を固め、その分野を通してネイティブアメリカンの社会的事項に取り組んでいこうというものである。活動内容は、職業的技能の向上やそのキャリアに対する社会的認識の向上、法律上の問題、また優れた活躍やプロジェクトの表彰や教育などが挙げられる。またネイティブアメリカンの由来の土地を精神的な意味から取り戻そうとする試み、デザインワークショップなども行っている。

ジョンポール・ジョーンズの発言

4つの世界

私たちインディアンの方法と信念の内側に立つと… (The Four Worlds: Stand inside Our Indian Way and Beliefs…). 私たちは私たち自身以上の何かに結びついている。それは私たちが祖先伝來のものから分かち合っているものである。それはひとつのカヌーである。ワシントンDCのカナダ大使館にはインディアンのアーティストによる素晴らしい作品がある。(写真1) そのカヌーは、動物、精霊、人間、植物でいっぱいである。狼、そのお供、シダーハット、人間の漕ぎ手、ビーバーの漕ぎ手、部分的に動物の心を持った人間にかぶさっている熊の精神、などでカヌーにはすき間がない。このカヌーのメッセージは、われわれがすべてつながっていることを教えてくれる。われわれはひとつなのである。この彫刻は、私の祖先のネイティブアメリカンの遺産「4つの世界」の関わりをひとつに表現してくれる。(写真2)

【自然界】四季、雲、循環、生活、重要な方向、植物、岩、石、水、癒し、空、地上と地下、山、地平線、日の出と日の入り、夜と昼、匂い…。

【動物界】家族の絆、力、伝達者、治癒力、四季と方法の関係、音、色、循環、生活、儀式的な結束…。

【精神界】創造、再生、継続、生命線、視界、火と煙、儀式、内と外、夢、癒しと葉、象徴性、生と死…。

【人間界】教えること、知識の移転、物語、家族、歓待、ユーモア、支援、結束、祝、世代、尊敬、創造性…。

私が建築の学生のとき、建築とランドスケープアーキテクチャーの歴史について2年のコースを取るのに必須だった、教授は何度もネイティブアメリカンの建築やランドスケープを取り上げた。北アメリカには原住民によって建てられた力強い古代の建築やランドスケープが今も残っている。インディアンの方法と信念は歴史的にも現在においても理解する価値がある。北西部ネイティブアメリカンの物語は、私たちに語りかける。“It's good to stand inside our story.” 私たちの物語の内側にいなさいと。私たちは私たち自身が理解しているよりも、もっと深くつながっているのだ。北西沿岸のサリッシュ、ダン・ジョージ酋長(Tal-Lai-Wah)は次のメッセージをわれわれに残してくれた。

木々の美しさ
空気のやわらかさ
草の香
私に語りかける

星のかすかな輝き
朝のさわやかさ
花々の露のしづく
私に語りかける

火の力強さ
鮭の風味
太陽の軌跡
そして決して消え去らない命
それらは私に語りかける

そして私の心は高く舞い上がる

【感想】この公演では、ネイティブアメリカン出身であるランドスケープアーキテクトが、いかに彼らの歴史的・伝統的な精神世界を、現代あるいは将来のデザインに取り込んでいくことができるか、というチャレンジを見せてくれた。ネイティブアメリカンの宗教的、精神的世界は、キリスト教とは異なり、アニミズムのようなもっと自然に根ざした根源から成る。そういうことから、デザインの発想はより自然に則した形で発生することになる。コーネル大学在学中に、ニューメキシコ、ズーニーインディアンの村のためのプロポーザルをするデザインスタジオのクラスを取って以来、ネイティブアメリカンの文化に不思議な共感を抱いている。日本の文化が急速に西欧スタイルを取り入れ、日本の街に降り立つとしても、京都でもないかぎり、これといった強烈な日本の伝統的街並みに出合うことがないように、彼らの文化もまた、流れ込んでくるアメリカの現代文化の中で失われつつあるものがある。単に伝統的な建築、ランドスケープ等を保護していくこと、さらには、いかに現代的なデザインにおいて、フィジカルな形ばかりでなく、例え方角の重要性など精神的な構造をも表現していくことができるか、という彼らのプロジェクトへの熱い思いが伝わってきた。AICAEはそうしたネイティブアメリカンの個人個人、またデザイン事務所のエレルギーを結束させ、よりいっそう将来に向けて発展させていこうという組織である。ネイティブアメリカンの世界では、大地から生命が生まれてくる。また、彼らにとって「土地」についてはアメリカ大陸において歴史的に微妙な問題が残っている。そのようなところからもランドスケープアーキテクチャーへの関連性を強く感じさせられる。ジョンポールの語ったインディアンの「4つの世界」のように、自然と共生して生きて行くことが彼らの伝統的な哲学である。彼らの目指している方向こそ、環境に対する人々の意識が高まっている今日に求められているように思った。日本もまたアニミズムの文化を持っている。私たちはどのように将来に向けてこれを発展させて行けるだろうか。

(岩田明子)

■AICAEの4つの使命を果たすために■

- 1) 仕事におけるアーキテクト、エンジニアの役割と専門技能の発展—政府と部族の仕事でのコンサルタントの選択のためのコンペに基づく登録、保険、資格等の専門的な事項に焦点を当てること。マーケティングテクニック、登録と議会通過のための策略、人事管理、交渉とコミュニケーション、所有権の変遷。
- 2) アーキテクト、エンジニアの職業におけるキャリアへのネイティプアメリカンの関心の向上の促進—国内会議への参加、AICAEメンバーの個人、会社等の紹介の奨励、専門的業績の表彰、インターナショナル、寄付、奨学金、公演、コミュニティ参加、教育的レクチャーの支援。
- 3) 公正なコンペ、高等教育、基本的な住宅供給、その他必要とされるネイティプアメリカンに関する立法上の事項の継続的な発展を通しての国内的承認と代表権のために一つの焦点にアーキテクト、エンジニアを結束させること。
- 4) AICAEメンバーのサービス、プロジェクト、貢献プロフェッショナルな業績の承認と表彰の促進—AICAEプログラム優秀賞：デザイン、コミュニティ参加、サービス、新技術、コミュニティリーダーなどの分野。



リトルビックホーン・バトルフィールドへのフィールドトリップとデザインの提出。ユタ州立ユニバーシティのネイティプアメリカンの学生たちが、ネイティプアメリカン環境デザイン同盟（NAEDA= The Native American Environmental Design Alliance）のメンバーと共にリトルビックホーン・バトルフィールドに、ここで亡くなったインディアンのためのモニュメントをデザインしようというワークショップを開く（1876年リトルビックホーンの戦いはアメリカ軍の歴史上最悪の軍事的敗北の一つとされている）。このとき100人のインディアンの戦士が亡くなった。

Native American students of Utah State University and members of the Native American Environmental Design Alliance on a field trip to Little Big Horn Battlefield to draw up designs for a memorial to Indians killed at Little Big Horn in 1876.
Photos courtesy of Garce Associates.



写真1 ウィスコンシンDCのカナダ大使館にあるインディアンのアーティスト、ビル・リードによるカヌーの作品

Native art depicting a canoe at the Canadian Embassy in Washington, D.C.

Photos courtesy of Jones & Jones.

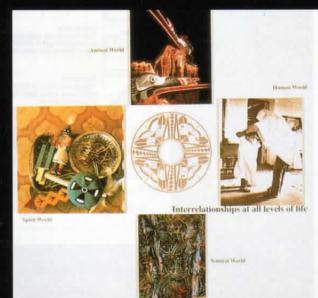
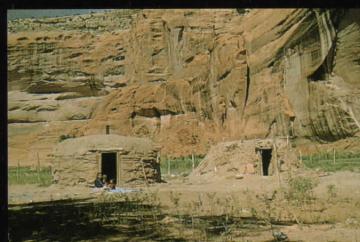


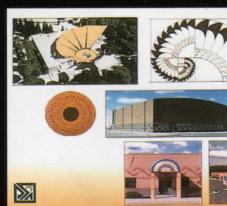
写真2 ネイティプアメリカンの「4つの世界」の関わりを表現したもの
Depiction of "The Four Worlds" of Native American lore.



インディアンの守神
ワタリガラスの彫刻
Native Indian sculpture of a protective god.



ナバホ「ホガス」（土と木材の住居）
Navajo "hogans" (earth and timber dwellings).



オウム貝の形状をしたスミソニアンインスティチュート文化資源センター。かごと羽をモチーフにデザインされたコミュニティセンターとヘルスケアファシリティ

The Smithsonian Institute's Cultural Resource Center, with design based on the nautilus shape. Community Center and Health Center Facility designs based on basketry and feather motifs.



ナバホデザインを基に設計された近代建築。ナバホの伝統的な建築素材が使われている

Modern building that borrows from Navajo designs and traditional building materials of the Navajo Nation.

Photos courtesy of David N. Sloan and Assoc.



カタウバミュージアムの模型
CATAWBA Museum Model, entry side.



イーグルウイングセンターのパース
Summer rendering of the Eagle Wing Center.
Photos courtesy of The Presnell Group

10月4日 セッション5 (1:30pm-3:00pm)

10) 文化の鏡としてのランドスケープ

Landscapes as Cultural Mirrors



エリザベス・フィッシャー (高速道路管理連盟の景観プログラム勤務)

リチャード・マーソン (ランドスケープアーキテクト、テキサス州交通局)

ロバート・サラス (サンディエゴ在住アーティスト)

ジュセフ・サラザー (ランドスケープアーキテクト、アリゾナ州交通局)

ミッセル・スミス&トム・ジョーンズ (ランドスケープアーキテクト、W&Hパシフィック、オレゴン州)

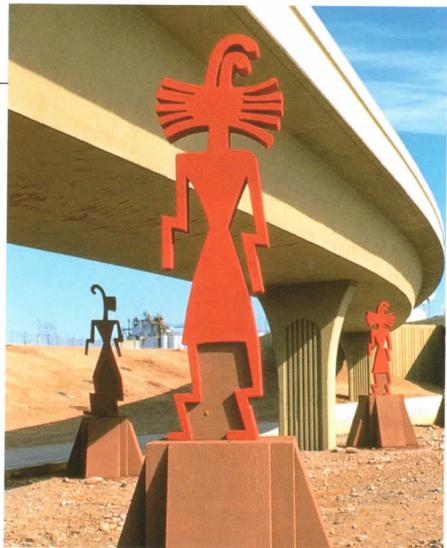
Elizabeth E. Fischer, National Scenic Byways Program of the Federal Highway Administration

Richard C. Mason, Landscape Architect, Texas Department of Transportation

Roberto Salas, San Diego artist

Joseph Salazar, Landscape architect, Arizona Department of Transportation

Michael Smyth and Tom Jones, Landscape architects, W&H Pacific, Oregon



ランドスケープアーキテクトはその地域の複雑な文化を定義し、選択し、反映することのできる手段を必要としている。

高速道路のような交通機関のための施設は、特に地域のコミュニティの環境や経済、その場所の雰囲気に影響する。地域性を形成する最もシンプルな方法は、そのコミュニティのアイコンやシンボル、その地域原産の植物、その地域の代表的なランドフォームを使うこと、などである。原産の植物を使うことは、長期的にはメンテナンスコストが少なくてすみ、野生の動植物の生態系は改善される。また植物についての住民の意識が高まり、「地域性」という感覚を提供するなどといった利点がある。造形物は同様にそのコミュニティの文化的価値をいかに視覚的に表現しうるかというチャレンジを与えてくれる。

◆スカイハーバーエクスプレスウェイ

このプロジェクトはユニークで創造的なランドスケープデザインである。アリゾナとフェニックス市エリアに入るゲートウェイのエントランスに位置するこのデザインは、歴史文化的なネイティプアメリカンの陶器から取ったパターンを大地に描いたものである。またこのデザインの一部として使われた砂漠に適した樹木、野草、サボテンは、訪れた人々にアリゾナとフェニックスの印象とともに、ここの地域性をアピールする。大地に描かれたイメージは、スカイハーバー空港へ入りする飛行機から見えるばかりでなく、道路からも十分眺めることができるように配置された。また車両の安全性を考えて、擁壁の後ろで道路の脇から十分離れた位置に配置されている。ホピ族とホホカム族の陶器から色が選ばれ、さまざまなアースカラーの花崗岩などの石で地面を埋めることで描かれた。このランドスケープは実際斜面を安定させ、浸食を防ぐ機能も果たしている。従来の植栽などのランドスケープに比べて、メンテ

ナンスも最小限で済み、長期的にコストが抑えられる。

【感想】アメリカが多種多様な人種と文化に恵まれていることは周知の通りである。また各州によってその混ざり具合は異なり、その州自体の風土とともに様々な特徴を持っている。この講演では、文化的なランドスケープをどのように大地をキャンバスとして描くことができるか、いくつかの具体例を見せてくれる。アメリカのメジャーな交通手段は車であり、ハイウェーはそのための主な構造物である。どこへいっても眺めの中にハイウェーが入ってくることが多い。交通網というのは、単に道路や橋梁といった線的な構造物という存在を越えて、場所と場所をつなぐ神経系のようなものではないだろうか。

ここで紹介される例は、ハイウェーのインターチェンジなどの空間を利用し、その地域の文化をいかに表現できるかを試みている。ハイウェーによってつくり出されるデッドスペース、高速道路の高架橋の下、インターチェンジ周りの空間などをうまく利用して、ランドスケープデザインでその町の地域性を表現しようとするこれらの試みは成功しているといえよう。車社会のアメリカでは、景色のあまり変わらないハイウェーを長くドライブすることも少なくない。所々にこのようなランドスケープが出現するのは、なんとも楽しげではないか。またそれらが事前の地域文化の調査をもとに、洗練されたデザインとして実現されていることにも感心させられた。アーティストの作品では、市やアート関係の団体からの依頼により、地域コミュニティの人々とどのようにコラボレーションしてそれらが作られたかを見せてくれた。聴衆の中に若いアーティストがいて、どうしたらアーティストが公共の仕事を見つけることができるのか、といった質問があったのも興味深かった。

(岩田明子)



シェレブポートのための建築ディテール 1998年、アクリルペイント
ダウンタウンの歴史的建築を描いた街とコミュニティのための壁画。
これらのイメージは様々なダウンタウンのビルから引き出され、
歴史的な散策と市民のプライドを高める
(レイジアナ州シェレブポート)

"Architectural Details for Shreveport" 1998.
Acrylic paintings of various sizes. City and community murals
capturing the downtown historic architecture. These images have
been appropriated and scaled from various downtown buildings
creating a historical tour encouraging civic pride.
Photos courtesy of Roberto Salas.



ナイトビジョン。12の反射板で作られた道路標識。サンディエゴ市所有
"Night Vision" 1988
Twelve reflective road signs, north and south bound on Park Bl.
Aluminum and reflective vinyl. Balboa Park/Zoo entry. Owned
and commissioned by the City of San Diego.
Photos courtesy of Roberto Salas



建設中の調整池。高架のフリーウェーからこのグラフィックが眺められる
The central landform graphic is located in a large retention basin.
Photo courtesy of Joseph R. Salazar



ホピインディアンの陶器からイメージを取ったランドスケープシンボル。

中心のサークルはホピ族の精神世界を示す「大地の中心」

This is a Hopi Indian pottery type landscape symbol that represents the

following, the center circle is the "earth center", the spiritual domain

of the Hopi clans.

Photo courtesy of Joseph R. Salazar



スカイハーバーエクスプレスウェイ。ホホカム族の古代動物を描いた斜面
Sky Harbor Expressway. Hohokam Coatiundi petroglyphs on roadside slope.

Photo courtesy of Joseph R. Salazar.

